



SERIES
Schilke
Trumpet

シリーズ シルキーの魅力 - 前編 -

新時代を切り拓くザ・シルキー・ファイブ

シルキーに惹かれた国内トップレベルのオーケストラ奏者たちが、シルキーサウンドを求めて結集し、トランペットアンサンブルの新たな形を発信する「ザ・シルキー・ファイブ」。このコーナーでは歴史的トランペットメーカー「シルキー」のシリーズ連載前編として、ザ・シルキー・ファイブにインタビューを敢行。彼らの言葉とその活動を通して、シルキーの魅力を紐解いていこう。

シルキーだけのサウンドを求めて

—— ザ・シルキー・ファイブ(以下、シルキー・ファイブ)結成の経緯を教えてくださいませんか？

高橋 僕の師匠である津堅(直弘)先生が中心となって活動していた「THE TRUMPETS 5」というアンサンブルがルーツにあり、10数年前に活動を停止されたのですが、そのころにシルキー国内総発売元のグローバルさんから「THE TRUMPETS 5 のようなアンサンブルをつくりませんか？」とご相談いただいて、私も賛同したのがキッカケですね。ネーミングでおわかりかと思いますが“シルキーを使った、シルキーだけのサウンドを求める”というのがシルキー・ファイブのテーマです。

そこで、グローバルさんと共同で国内のシルキープレイヤーをリサーチし、活動のしやすさを考慮して都内のオーケストラプレイヤーに絞って集まったのが今の5人です。

—— シルキー・ファイブの結成はいつごろ？

高橋 初演は昨年でしたが、メンバーを揃え

始めたのは2017年で、リハーサルは2018年から始めていたので、ゆっくりと時間をかけて準備していきました。

—— みなさんはずっとシルキーを使いつけてこられたのですか？

高橋 僕もそうですが、皆いろんな楽器を使ってきて、シルキーに到るといった感じですね。

—— 高橋さんや田中さんはシルキーの開発にも協力されてきましたが、みなさんがお使いのモデルの変遷を教えてくださいませんか？

高橋 シルキーはもともと100%リバースタイプであり、それが“シルキーたる由縁”でもありましたが、10年ほど前に従来のシルキーより少しヘビーな「HDシリーズ」が発売されました。その際に気に入れば使わないかとお声がけいただきましたが、そのときは僕にとってはもう少し多彩な音色感が表現できると良いのにと感じて見送りました。

そこからグローバルさんやシルキー本社と

話し合いを進めていきました。オーケストラは色彩が重要だと思っているので、シルキー特有の音色を持ちながらも、様々な音色の変化に対応できる楽器を求め、ベルのテーパーを変えていきました。そうした試行錯誤の末に4、5年前に生まれたのが「C3HD」です。そのC管がとても良かったので田中くんと使い始め、徐々に日本でも浸透していきました。

C3HDが誕生して、次はC3HDに準じたB♭管があるといいなと思いました。もともと私はE♭管とピッコロはシルキーを使っていたので、すべてシルキーに変えたいと思い、C3HDができた翌年に田中くんと二人でシカゴの工場に赴き、C3HDを基にした素晴らしいB♭管を作っていただきました。それが「S23HD」と「S33HD」です。そこで帰ろうとして、さぁ空港に向かうかという時にシルキーの社長から「実はこういったものも開発している」と見せられたのがソロイストのプロトタイプモデルでした。シルキー伝統のリバースタイプから、スタンダードタイプに



変更された衝撃のプロトタイプは「まさにこれを求めてきた」と言えるほどセンセーショナルな出会いでした。この楽器を日本でも吹けるようにしたいと思い、翌年から田中さんと開発に協力し、生まれたのが今のソロイストシリーズです。松山さんや川田くんもソロイストをすごく気に入ってくれて使っています。

——全員ソロイストシリーズを使用されているのですか？

内藤 実は僕だけC管がC3HD、B♭管はS23HDを使っています。この楽器には思い入れがあって、僕がシカゴに留学していた時にシルキーの工場に行く機会があり、その時に「こんな作ってるんだよね」と出されたヘビータイプの楽器がHDのプロトタイプだったんですよ。当時は私もC管は違う楽器を使ってましたが、プロトタイプを吹いたときにいいなと思ったので「発売したら買うよ!」と言って帰国し、のちに出たのが10年以上後とかだよな？

高橋 もともとのプロトタイプから数えたら15年くらい経ってたね。内藤くんが留学から帰ってきたころに出来上がったHDシリーズはもっとベルのテーパーが大きかった。

内藤 そうそう!

奏者が感じるシルキーの魅力

——みなさんにとって、シルキーの魅力とはなんですか？

内藤 音色に一番の魅力を感じています。私だけC3HDやS23HDを使っている理由にも繋がるのですが、もともと私は昔から

シルキーの特殊管を使っていて、C管やB♭管にもそのシルキー特有の音の明るさが欲しかった。それを追求していったら、たまたま僕だけ違う楽器になりました(笑)。

松山 私も特殊管はシルキーを使っていますが、シルキーのB♭管やC管はリバースタイプだったので、自分では使いこなせないなと思っていました。それがスタンダードタイプのソロイストシリーズが出て、吹いてみた時に「これなら私も使える!」と思ったんです。オーケストラでの経験を重ねるうちに、シルキーのような明るい音色に自分の好みも寄っていったころにこの楽器に出会ったので、せっかくなら全部同じメーカーの方がパツと持ち替えた時の感触も同じになるので、すべてシルキーに統一しましたね。

——田中さんはソロイストシリーズの開発にも携わりましたが、ソロイストシリーズの魅力とは？

田中 やはりスタンダードタイプのチューニングスライドが変わったことで、息の方向性がすごく変わり、表現力が広がりました。高橋くんとシカゴへ行った時に、リバースじゃないとシルキーの良さが失われるのでは？とシルキー本社に聞いてみると「ピッチの伝統はしっかり守ってるよ」と。つまり仕組みが変わっただけで、伝統的な音色や響きはそのままで、息を入れた分だけ楽器が反応してくれるところが進化している。今の楽器を使って2年になりますが、一体感というか楽器と自分がリンクするようになってきて、「このくらい息を入れたらこれくらい鳴る」がはっきり掴めるようになったし、楽器も応えてくれています。今すごく良いバランスですね。

——川田さんにとってシルキーとは？

川田 私は3年半ほど前に東京フィルに入団しました。東京フィルはゲーム音楽やオペラ、バレエ、シンフォニーコンサートなど様々なジャンルの業務をパズルのように予定を組んで練習し本番をしています。また東京フィルに入りその他の仕事も増えました。とてもありがたかったですが、忙しくなり過ぎて知らず知らずのうちに調子を崩してしまい、自分を見失った時期があったんです。そんな時にちょうどシルキーのソロイストシリーズを使わせていただく機会があって、そこからどんどん調子が戻っていきました。

具体的にシルキーのどんなところが私を助けてくれたかという点、出ている音が自分によく聞こえるし、会場の遠くにも鳴ってくれているんです。実際、ゲネプロの時に客席で聴いている団員から「すごく良く聴こえてるよ!」と言ってもらえた時がありました。自分としては、全然力んで吹いていないのに、オケに溶け込んでいて、それでいて良く聴こえていると。

——以前はバックをお使いになっていたとお聞きしましたが、バックとシルキーで吹奏感も変わりましたか？

川田 私はシルキーの方が、より自分の発声に近い感覚で吹くことができます。なので取り回しが効く。音ムラもない感じがします。他の楽器は割と「ガルガルッ」となるポイントがあったりするんですよ。

高橋 単純にいうとシルキーは音程がいいんですよ。他のメーカーだと少し音程にクセがあったりするので、ツボとずれたところに意図せずいってしまうとガルガルッとなってしまうのかなど。



高橋 敦 / Osamu Takahashi

富山県生まれ。洗足学園音楽短期大学を経て、洗足学園大学を卒業。トランペットを津堅直弘、関山幸弘、佛坂咲千生の各氏に師事。第65回日本音楽コンクール第1位。第13回日本管打楽器コンクール第1位。新星日本交響楽団(現、東京フィルハーモニー交響楽団)を経て1999年、東京都交響楽団首席奏者に就任。宮崎国際音楽祭、鶴岡国際音楽祭、セイジ・オザワ松本フェスティバル、防府音楽祭などへ定期的に参加。2016年に開催されたGolden Brass Japan Festival at Port of Moji音楽監督。これまでにソリストとして国内外のオーケストラや吹奏楽団と共演。世界で最も権威と伝統があるミュンヘンARD国際音楽コンクールの審査員も務める。洗足学園音楽大学客員教授、東京音楽大学講師。

〔使用楽器〕 B♭管:SB4-OT GP、C管:SC4-OT SP
D/E♭管:E3L GP、Pic.:P5-4 GP、P7-4 GP

——高橋さんはこれまでシルキーの様々なモデルを試されてきたと思いますが、高橋さんにとってのシルキーの魅力とは？

高橋 簡単にいうと吹きやすいんですね。自分が思い描いている音楽や音色を再現できるのが一番の魅力です。シルキーを使う前は、音を目立たせたい時に相当吹き込まないといけなかったのが、シルキーだと普通に吹いてのびやかに音がアピールできるので、今までのように頑張らなくていい必要がなくなりました。

時代とともにトランペットのあり方も変わってきていて、40、50年前は音をかなり立てて吹く時代がありました。マウスピースも小ぶりが主流でした。当時のアメリカのホールが響かなかったのもあるかもしれませんが。それが時代とともに、近年では溶け合うようなトランペットの音が求められるようになり、楽器も柔軟な傾向に変わってきました。そんな時代背景の中で、今の楽器を使って音を立たせようとする、今度はかなりエネルギーが必要になり、苦労されている奏者も多いのだと思いますね。こうした「幅広い音楽に対応できる」という点が、今シルキーが求められる理由なのかなと思います。

笑顔伝えるシルキー・ファイブ

——そんなシルキーのトランペットだけを使った「ザ・シルキー・ファイブ」ですが、アンサンブルとして大切にしているコンセプトや魅力は？

田中 コンセプトかあ……。やっぱりみんなの笑顔ですかね？(笑)

一同 笑

田中 でも冗談抜きで、笑顔で演奏できる、笑顔で練習できることが一番だなと思っていて、そこがシルキー・ファイブをやっている楽しいところなんです。長くやっていますが、常に笑顔が絶えません。これがコンセプトになるかわかりませんが、自分たちが楽しくやって、それがお客さんにも伝わって聴いてもらえるのが一番かなと。グローバルさんがこうやってメンバーや楽器を用意してくれて、皆がいてこれだけのことができています。ある種自己満足な部分もあるかもしれないけど、僕らが楽しめればお客さんにもきっと伝わると僕は思っています。

松山 私はみんな個性やキャラクターがあって、他にはないグルーブかなと思います。私たちの演奏を観に来てくれたお客さんから「みんなそれぞれの個性があるけど、それがピタッと合うのを聞いて、改めていい団体だと思いました」と言っていました。私もキャラが濃いというか……強い団体だなと思います(笑)。

一同 笑

——みなさんのキャラクターをイメージで例える？

田中 オーラとか見えるの？(笑)

松山 見えない(笑)。でも色で例えるなら敦さんは赤ってイメージですね。

一同 あー赤ね。持ってるもんね(笑)。

松山 川田さんは……黄色かな。

一同 カラー色！(笑) カラー好きだもんね。

松山 内藤さんは青。

内藤 よく言われるね。

松山 田中さんは……紫？

田中 紫いいねえ～(笑)



川田 修一 / Shuichi Kawata

1984年福島県出身。国立音楽大学を矢田部賞を受賞し首席で卒業。藝大フィルハーモニア管弦楽団を経て2017年、東京フィルハーモニー交響楽団首席トランペット奏者に就任。第78回、81回日本音楽コンクール入賞。第25回日本管打楽器コンクール3位入賞。第49回独Markneukirchen国際コンクール ディプロマ賞授与。2015年、文化庁海外研修員としてドイツ・カールスルーエ音楽大にて研修を行う。トランペットを北村源三、熊谷仁士、山本英助、野口浩史、Reinhold Friedrichの各氏に師事。Brass Ensemble ZERO、Le Due Trombe、金管合奏団「笑」のメンバー。

〔使用楽器〕 B♭管:SB4-OT SP、C管:SC4-OT SP
D/E♭管:E3L SP、Pic.:P5-4 GP
Flugel:1041FLC-CL



内藤 知裕 / Tomohiro Naito

1991年東京文化会館新進音楽家デビューコンサート出演。1993年第10回日本管打楽器コンクール第4位。大学在学中に東京都交響楽団に入団。1995年東京芸術大学音楽学部卒業。第65回読売新人演奏会に出演。1996年第65回日本音楽コンクール第3位。1998年ITG主催E.Smith国際コンペティションファイナリスト。2002年文化庁芸術家在外研修員としてシカゴに留学。これまでに、トランペットをW.スカーレット、杉本圭夫氏に師事。現在、東京都交響楽団、エマーソンプラスクインテットトランペット奏者、尚美学園大学非常勤講師。

〔使用楽器〕 B♭管:S23HD SP、C管:C3HD SP
D/E♭管:E2D GP、G管:G1L SP

——なんか戦隊モノみたいですね(笑)

一同 グレンジャー(笑)。

——なるほど(笑)。そうしたキャラクターの違いもシルキー・ファイブの見どころですね。

松山 そうですね。それぞれの個性を壊さず、主張しつつもアンサンブルできるところが魅力ではないかなと思います。

——シルキー・ファイブ内では、音楽的な役割もそれぞれあるのですか？

高橋 役割は……特にないですね(笑)。シルキーを使う五人が集まり、特殊管も含めていろんな楽器を駆使して演奏するのを皆さんに楽しんでもらう。それが全員の役割ですね(笑)。

——内藤さんや川田さんにとって、シルキー・ファイブの良いところは？

内藤 僕が使ってるシルキーの特殊管は相当古いんですよね。20年くらい使っていますが、シルキーはその歴史の中で崩れていない一貫したアイデンティティがある。個性が強いのにまとまりがあるという僕らとシルキーは同じような共通項があるので、無駄なことを考える必要がなく、自分たちが思い描いた音楽を突き詰められる点が良いなと思います。

川田 みんながまだ話していないことと言えば、グローバルさんの協力も大きいですね。楽器の細かい箇所のオーダーにも素早く対応してくれて、次の練習に問題なく使えるようにしてくれるので本当に助かってます。それに僕にしてみれば高校生のころから見てきたスタープレイヤーとご一緒させて



松山萌 / Moe Matsuyama

島根県隠岐の島町出身。東京藝術大学卒業。学内においてアカンサス音楽賞、同声会賞受賞。藝大フィルハーモニア管弦楽団を経て現在、東京交響楽団トランペット奏者。第30回日本管打楽器コンクール第1位、併せて文部科学大臣賞、東京都知事賞受賞。NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」出演。これまでに小曲俊之、佛坂咲千生、杉本圭夫、早坂宏明、古田俊博、佐藤友紀、坂本浩規の各氏に師事。金管五重奏団 Buzz Five メンバー、スーパーストラスお友達プレイヤー。ドルチェ東京・ミュージック・アカデミー講師。

【使用楽器】 B♭管:SB4-OT SP、C管:SC4-OT SP
D/E♭管:E3L SP、Pic:P7-4 SP

いただいで、伸び伸びやらせてもらってます。シルキー・ファイブは僕の心のオアシスです(笑)。

——リーダーの高橋さんから見て、シルキー・ファイブの魅力は？

高橋 みんな育った環境や年齢も違います。その中で、笑顔で1つの音楽を作り上げていく過程は世代や性別を超えて、みんながリスペクトしあっています。個性があって当たり前ですし、それが音楽の魅力につながっていると思います。それにさっき話に挙げましたが、川田くんが悩んでいることは僕らも経験してきたことなので、励ましたり、支えることもできるのがこのグループの良さだと感じています。

またトランペットアンサンブルとしてハーモニーを考える上で、高音を吹くのに向いている楽器、下を吹くのに向いている楽器、ソロ向けのものやアンサンブルするもの、色々ありますが、シルキーは個性を立たせつつ、それでいてしっかりハーモニーしてくれる

特徴があります。アンサンブルを作る際に、何番を吹くかなどの役割を固定しなくても楽器が応えられる。これはシルキーだからこそできることで、楽器が違っていたらそうもいかないと思います。そこもシルキー・ファイブの魅力と感じています。

こんな時代でも楽しいことは きっと見つかる

——そんなザ・シルキー・ファイブですが、来年1月から演奏会を予定されていますね。

昨今のコロナ禍は、音楽家にとっても本当に厳しい状況を生んだと思います。その中でもコロナとの付き合い方を学び、ようやく演奏会が開ける段階まで来ました。来年の演奏会は笑顔を取り戻す、ひとつの希望にもなると感じています。みなさんから演奏会に向けたメッセージをいただけますか？

高橋 我々もやはり自粛を余儀なくされて自宅から出れない日々がありました。久しぶりにシルキー・ファイブのリハをした時は、壁に



田中敏雄 / Toshio Tanaka

1994年東京音楽大学卒業。トランペットを津堅直弘氏に師事。1992年にサンポイント(米国)音楽祭に参加し、室内楽をH.フィリップス氏、W.マルサリス氏の両氏に師事。在学中に関西フィルハーモニー管弦楽団に入団し、同団を経て現在読売日本交響楽団トランペット奏者。トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ、なぎさプラスソリスト、トランペットアンサンブル「THE MOST」メンバー。上野学園大学非常勤講師。ミュージックスクール「ダ・カーポ」講師。

【使用楽器】 B♭管:SB4-OT SP、C管:SC4-OT SP
D/E♭管:E3L GP

張り付くくらいのソーシャルディスタンスを保ちましたが(笑)、みんなの笑顔を見れたときはとても嬉しかったし、笑うことを思い出しました。「初心に戻る」ではないですが、トランペットを通して楽しいことつらいこと、色々なこと経験し、乗り越えてつけてこれたことを思い出しました。今回は様々な想いで演奏していますので、きっと聴きに來られたかたにも同じような想いを届けることができると思うし、間違いなく“元気”になって帰っていただけたらと思います。

内藤 こういう状況だからみんな暗くなってしまし、僕らも初めての経験で苦しい思いをしましたが、こんな時でも視野を広くもってれば楽しいことはきっと見つかる。僕にとってもシルキー・ファイブは楽しい場所です。そんな姿を見て、みなさんも楽しんでいただけるように僕らも頑張りたいと思います。

松山 行ったことのない場所にも今回は行きますのでごく楽しみです。トランペットをやっているかたはもちろんですが、そうでないかたも楽しませたいと思っています。コロナの影響がこれ以上酷くならないことを願いながら、私たちが頑張りますので、応援よろしくお願いします。

川田 この状況でオンラインコンサートが増え、地方でもコンサートを聴きに行く機会は減ってしまいましたが、なんとか状況がこのまま上向いて、“生”のシルキーサウンドをぜひ聴きにきていただけたらと思います。

田中 どの年代のかたに来ていただいても老若男女問わず、楽しんでもらえると思います。こうした期間になりますが、コロナ対策もしっかりとしてリハーサルに取り組み、きっと良いものを皆様にお届けできると思いますのでぜひお越しください！

コンサート情報はこちら！

～トランペットアンサンブル～ ザ・シルキー・ファイブ コンサートツアー 2021

★コンサートツアー 第1弾

【京都公演】

2021年1月21日(木) 19:00開演(18:15開場)
京都府民ホール「ALTI・777」
全席自由 一般¥3,000 / 学生¥1,500 ※当日券は¥500アップ

【名古屋公演】

2021年1月22日(金) 19:00開演(18:15開場)
ザ・コンサートホール(名古屋・伏見・電気文化会館)
全席自由 一般¥3,000 / 学生¥1,500 ※当日券は¥500アップ

【仙台公演】

2021年1月25日(月) 18:30開演(18:00開場)
宮城野区文化センター バトナホール
全席自由 一般¥3,000 / 学生¥1,500 ※当日券は¥500アップ

★コンサートツアー 第2弾

【鹿児島公演】 3月30日(火) @鹿児島県民交流センター・中ホール

【福岡公演】 4月1日(木) @あいのふホール

【岡山公演】 4月2日(金) @岡山県立美術館ホール

【東京公演】 4月5日(月) @渋谷区文化総合センター大和田・さくらホール

協賛: Schilke Music Products, Inc

主催・問合せ: 株式会社グローバル
concert@global-inst.co.jp / 03-5389-5111